

図書館ミニ展示「錯視」

請求記号	書名	著者名	出版年	出版社
022.5//A49	安野光雅装幀集	安野光雅	1984.4	岩崎書店
141.21//H81	視覚の文法：脳が物を見る法則	Hoffman Donald D.	2003.3	紀伊國屋書店
408//B59//1058	不思議発見!アイマジックパズル82：目の錯覚を楽しむ	馬場 雄二	1995.2	講談社
408//B59//1501	視覚世界の謎に迫る：脳と視覚の実験心理学	山口 真美	2005.11	講談社
408//B59//1529	だまされる脳：バーチャルリアリティと知覚心理学入門	日本バーチャルリアリティ学会 VR心理学研究委員会	2006.9	講談社
408//B59//1703	人はなぜだまされるのか：進化心理学が解き明かす「心」の不思議	石川幹人	2011.7	講談社
408//B59//BC08	試してナットク!錯視図典：古典的名作から新発見まで全体験!	馬場 雄二	2004.12	講談社
414.6//Su34	エッシャー・マジック：だまし絵の世界を数理で読み解く	杉原 厚吉	2011.1	東京大学出版会
491.371//N77//2	脳が世界をつくる：知覚	日本放送協会	1993.11	日本放送出版協会
491.374//Mo44	アナログ・ブレイン：脳は世界をどう表象するか?	Morgan Michael	2006.11	新曜社
496.41//To41	決定版!どんどん目が良くなるマジカル・アイ	徳永 貴久	2002.7	宝島社
726.5//N77//13	日本の童画；第13巻「安野光雅.太田大八.堀内誠一」	安野光雅.太田大八.堀内誠一	1981.8	第一法規出版
779.3//Y97	人はなぜ簡単に騙されるのか	ゆうき とも	2006.12	新潮社
914.6//A49	空想工房	安野光雅	1979.6	平凡社
157号	別冊日経サイエンス「感覚と錯覚のミステリー」	日経サイエンス社	2007. 9	日経サイエンス社
174号	別冊日経サイエンス「知覚は幻：ラマチャンドランが語る錯覚の脳科学」	日経サイエンス社	2010.1	日経サイエンス社
50(3)号	数学セミナー「錯覚の数理」	日本評論社	2011	日本評論社
31(10)号	日経サイエンス「錯視のデザイン学：渦巻きを見る脳の数学的テクニック」	日経サイエンス社	2001.10	日経サイエンス社
31(9)号	日経サイエンス「錯視のデザイン学：見えることもあれば見えないこともある心の補助線」	日経サイエンス社	2001.9	日経サイエンス社
46(11)号	数理科学「視覚の科学と数学：錯視発生のシミュレーション/新しいウェーブレット・フレームの開発」	数理科学社	2008.11	ダイヤモンド社
46(10)号	数理科学「視覚の科学と数学：視覚の非線形数理モデルと錯視発生のシミュレーション」	数理科学社	2008.10	ダイヤモンド社
47(1)号	数理科学「視覚の科学と数学：色の知覚と錯視」	数理科学社	2009.1	ダイヤモンド社
50(1)号	情報処理「視覚情報の処理と利用」	情報処理学会	2009	情報処理学会

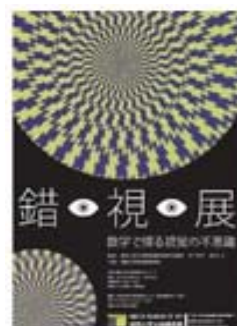
「錯視展」

2012年5月8日～6月16日※

水田美術館(日・月曜休館)で開催

<http://www.josai.ac.jp/~museum/>

※当初6月9日より延長



無いものが在るように見えたり、止まっているはずの文字や絵が動いて見える視覚における錯覚を「錯視」といい、古くから研究されてきました。近年では、心理学、脳科学、医学や神経科学の分野で研究されています。さらに、20世紀末からの数学の発展は目覚ましく、数学を使って錯視の本格的な研究をすることが可能になってきました。数学を使った錯視研究の最先端の研究成果を紹介し、視覚認識のメカニズムを数学的に解き明かす、最先端数学領域における研究業績を視覚的に体感するおもしろさをお楽しみください。

<美術館ホームページより>